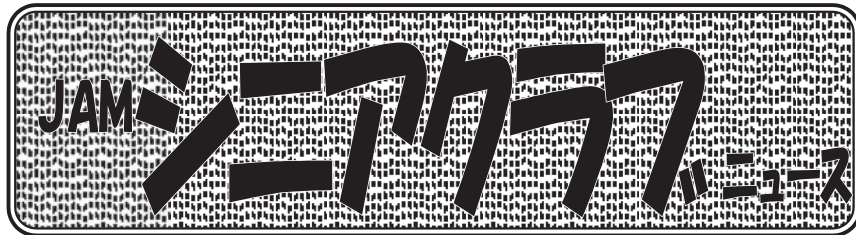


地域組織の確立で  
会員間の絆の促進を



第111号

発行日 2016年11月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

シニアクラブ連携  
強化懇談会を開催

## 現役との連携を進めることで一致 今後の会員拡大と政策政治活動

10月25日、JAM本部会議室で2017年度JAMシニアクラブ第1回連携強化懇談会を開催した。議題は両組織の定期大会と代表者会議報告、地方シニアの組織拡大、シニア活動検討委員会、さら

に今後の政策制度課題における現役との連携について意見交換した。

連携強化懇談会には  
JAMから宮本会長、  
藤川副会長、河野書記  
長、栄組織グループ長、  
シニアからは大山会長、

田子・木村両副会長、  
大野事務局長、豊泉・  
平木両事務局長次長が出  
席した。

冒頭、JAM宮本会  
長から新年度の活動を  
取り組むにあたって書  
記局内の人事異動を实  
施したことの報告があ  
り、末友さんが60歳の

節目を迎えたが今後も  
シニアの担当を継続す  
ることになった。また  
津田弥太郎前参議院議  
員の退任に伴い、JAM  
M組織内国会議員が不  
在となる中で今後どう  
政策政治活動に取り組  
んでいくかの苦悩が話  
された。シニアクラブ  
大山会長は、新年度方  
針にふれ「現役組織の  
地協に合わせた会員の  
集まりをつくっていく

福島第一原子力発電所の事故が起こつて5年以上が経過しても、東電は廃炉に向けての工程や方法等が決められず、当初とりあえず出したあまり根拠のない工程表と方法を主張するだけです。

現在、何をどの様にしているのか？公表せず金が足りないのでは、国に負担を求める一方で、国は金融機関から借金をして、関係機構を通じ、東電に貸し付けるという形で金を出し、他の電力会社にも協力するよう求め、その負担分を電力料金に上乗せすることを拒まないとして、つまり国民の負担

以上の人が避難を余儀なくされており、責任を日本が負わなければならぬ。原発事故による放射性物質による汚染、国民の負担は増々大きくなってまいりました。

とすするシニア組織拡大方針は地方で積極的につまらぬ。また、県レベル・地協レベルで人が集まる組織をつくることの重要性和産業別労働組合の仲間のOB会であるシニアクラブの存在価値をより明確にしていくことを強調した。

長から新年度の活動を

## 原発はクリーンで一番安価な電力だろうか

千葉シニアクラブ会長 畑山 和宏

ンなエネルギーで、化石燃料は二酸化炭素を発生させ、輸入しなければならぬエネルギーです。

### 主張



による解決を図ろうとしていま

は停止している原発の再活動を推進し、国民の反対の行動で国内での原発政策が進まないために、原発の輸出というところでもないことを考えだし、その実現のための交渉を進めています。輸出した原発が事故でも起こせばその

原発に関わる地域や企業はどうしても今までの恩恵が染み付き、原発に頼る気持ちにはわかないわけではありませんが、方向を転換して新たな産業や製品の開発に取り組む必要があるのではないのでしょうか。

### JAMシニアクラブのホームページを開設

インターネットで「JAMシニアクラブ」と入力・検索するとつながります。地方シニア所在地、本部、地方、単組の活動、共済、機関紙などを掲載していますので活用してください。アドレスは次の通り <http://jam-senior.club/>

活動ポイントを報告し合い理解を深めた。意見交換では国会情勢と政策制度や双方の組織拡大の話題が中心となった。今回の政策実現活動の総括を個人・地方の取り組みの集約と三役によるヒアリングの実施などを経て、来年の中央委員会に向けて本総括を進めていくこと、政策実現活動を足元から強化するために今回の選挙戦をたかたかした藤川副会長を総合政策部門長としてJAMの政策政治活動をけん引していく体制としたこと、年金制度や労働法制が改善されている現実に現役とシニアが一步前にて連携していくことの重要性などが確認された。

### 京 第16回定期総会を開催

### 東 津田前参議院議員の講演

国政裏話

今だから話せる立法院の実態

小川 秀樹通信員

東京シニアクラブは10月6日(木)、JAM金属労働会館3階の会議室で講演会(午前)と総会を開催した。

講演会は、去る7月に2期12年の参議院議員任期を終えた津田弥太郎氏に講師をお願いし、「津田やたろうの国政裏話」今だから



新潟シニアクラブは9月26日(月)、長岡市の「魚籐」で第15回

### 新潟 新加盟単組シニアの仲間を

### 大歓迎の満場の拍手で迎える

大場 正啓通信員

定期総会を開催した。代議員・役員・来賓他46人が出席、冒頭、田村会長から参議院選挙の取り組みや熊本地震について挨拶があった。活動報告では1組織の加入と31人の加入者増、シニア共済では31人・113口の拡大などが報告された。また新加入の「明道メタル労組シニアクラブ」の

安倍政権が改正法案を提起した際の決議には

39項目を付帯させ、法案は実務的には政省令でカバーしていることやキャリア官僚との付き合い方での話も興味深いものがあった。

講演後の若干の質疑では民進党への期待について、政権担当は責任重大で理想や専門家の発想では国民の期待感とズレがある、など意見交換ができた。

午後からは来賓を含め総勢53人の出席で、第16回定期総会を開催

した。

この1年の活動、決算などを報告し、さらに向こう1年の活動計画と予算が了承された。特にシニア会員拡大に向け、現役の皆さんのご協力を頂きながら働きかけを続けていくことを確認した。

総会後に開かれた懇親会では、中央地協・菊地議長、西多摩地協・川上議長にも続けて参加して頂き、現役とシニアの交流を盛り上げて頂いた。

### 兵庫 兵庫シニア第14回定期総会

### 兵 組織拡大・選挙方針などを確認

徳永 良信通信員

10月21日、午前からJAM兵庫シニアクラブ(中下恵司会長・会員264人)の第14回定期総会が全労済兵庫県本部5階大ホール(神戸市)で開かれ、61人と来賓を含め81人が参加した。

最初に中下会長が挨拶「参議院選挙は思わしくない結果に終わってしまった。産別の国会議員を増やす必要がある。ますますいやな社会になってきている。アベノミックスをまだ続けると言っているが

るためJAM推薦候補の必勝」「機関紙の発行」などの項目を満場一致で決めた。

あの大敗の影響は大きい。年金、医療などすべての社会保障を解決するためにはみんなの協力で会員増をめざし、組織を拡大する以外にない。来年は結成15周年、元気でありますよ」と呼びかけた。

総会では、2017年度の会計予算(案)や活動計画(案)を討議。「会員拡大」「共済への加入促進」「選挙活動を積極的に支援、(来年の)尼崎市選挙で明見孝一郎の再選)、民進党の巻き返しを図

### 山 庭園の美や巨匠の作品を楽しむ

### 陰 議案を満場一致で確認

遠藤 渡通信員

山陰シニアクラブは、9月24日(土)に第7回総会を島根県安来市の鷲の湯温泉「さぎの湯荘」で開催した。

鷲の湯温泉といって全国の皆さんはご存知ないと思うが、横山

シニアクラブ大山会長、JAM山陰の細木委員長を迎えて開会された。山陰シニアの内田敬会長は、挨拶の中で、先の参院選の結果を受けて、3年後に向けて日頃の活動を充実させること、その具体化として来春の統一地方選でJAM山陰の組織内議員の再選を果たすことを訴えた。

親睦会終了後の会場清掃中に鳥取地震で電車が一時ストップ。遅れが出たが、全員無事家路に着いた。

議事は16年度活動報告、決算報告などの報告事項と、17年度活動方針案、予算案、17・18年度役員選出の議案が満場一致で承認された。続いて懇親会で出席者がお互いに親睦を含めて総会を終了し、帰りのバスまでの時間を利用して足立美術館で庭園の美や巨匠の作品を楽しみ解散した。